



所内 第8回 写真コンクール入選作 「水食模様」 地質部 片田正人

水 食 模 様

これは 宮崎県尾鈴山の北を調査していた時 路傍の河床で見出した露頭で 中生層を貫く花崗斑岩の小岩体(岩脈)にうがたれた自然の彫刻である 水食とはいっても「水」自身がうがったのではなく 水中に浮遊する砂粒が 何百年・何千年の間 何万・何億回となくぶつかって ほんの何ミクロンかづつけずり取っているうちにでき上がったものであるこれは特に珍しい現象ではなく 方々の河岸で見ることができる たとえば 地質ニュース5月号の表紙にもそのみごとな写真がのっている

子供のころ こんな所に出くわすと もし人間が虫けらのように小さくなってこんな所に迷いこんだら どんなにすばらしく ものすごいことだろうと ガリバーやアラビアンナイトを思い出しながら夢想したものである そして今でも 似たような あたかも自然の中に吸いこまれるような気持におそわれることがある。

肥田昇 技官 アメリカへ

鉱床部 核原料資源課 肥田昇技官は 国際原子力機関 (IAEA) 1961年度フェローシップにより 米国コロラド スクール オブ マイナス及び米国地質調査所コロラドオフィスへ ベリリウム鉱の探鉱に関する研究のため 去る7月30日空路出発した なお滞在期間は6カ月の予定

安斎・菊池 両技官 インドネシアへ出張

鉱床部 非金属課長 安斎俊男技官と 金属課 菊池徹技官は インドネシア国内の燐鉱石と蛇紋岩を調査するため 去る8月6日空路インドネシア国へ出張した 期間1カ月の予定

佐々木 昭 技官 カナダへ留学

鉱床部 金属課 佐々木昭技官は 安定同位元素による地質現象の研究

を行なうため オタワ市のカナダ地質調査所岩石部へ 9月24日東京発空路 オタワへ出発した 滞在期間は 約1カ年の予定

大町北一郎 技官 オーストラリアへ

鉱床部 金属課 大町北一郎技官は 西オーストラリアの Pompey's Pillar 鉄鉱床調査のため9月29日羽田発 空路出張した 帰国は10月末日の予定

あとがき

読書の秋 今月からアンケートのご要望に答えて 約10度程度方向転換を試みた これを90度にするか 180度転換にするかは 読者各位のご批判を待つ次第 すなわち 取材内容を 解説 トピック 講座 ローカルニュース 海外 学会ニュース等に分類したほか 技術相談 読者の声も 計画中 読者の皆様のご投書をお願いします(H)

地質ニュース 第97号 9月号
 定価 ¥100 千12
 昭和37年9月25日 発行
 編集 工業技術院 地質調査所
 発行人 吉 富 保 重
 発行所 株式会社 実業公報社
 東京都千代田区九段4の11
 Tel. (331) 7173・9387
 振替口座 東京 32466
 印刷所 凸版印刷株式会社